

「非戦」 ～戦争が答えではない 監修：坂本龍一

2001.12.20 幻冬舎

「希望ある未来」のために

戦争という暴力は認められない

# 非 戦

核と人類は共存できない



坂本龍一

作曲家・ピアニスト・音楽プロデューサー

2023.3.28 逝去

「原爆に限らず、戦争に行くってことは痛いことなんです。痛くて苦しくていやなこと。僕なんか耐えられない」「歳を重ねが年も経験して痛みがよくわかるようになりました。そして子ども世代のためにと考えるようになりました」(’23.4.3-4 朝日新聞朝刊より \*も)

#### ■環境活動家・田中優氏

坂本さんは普通の人としての感性を忘れない人だった。「非戦」の出版記念会の時に初めて会ったんだけど、一緒に活動して楽しいことがたくさんあったな。

もちろん尊敬してたし大好きだったけど、叱られたこともあった。「NYにいる人たちは辛い思いもした。それでも彼らに向けて“非戦”と言ったんだから、非戦を貫く思いを持たないと。だから“大切な人を亡くしてもそれでも戦わない”というぐらいの想いを持たないと」

ぼくも尊敬してたけど、ミュージシャン仲間の方が坂本さんを尊敬してたと思うな。別格な思いがあると思う。だからアーティストパワー（アーティストによる自然エネルギー促進プロジェクト）の集まりには多くのミュージシャンが結集してたんだと思う。ap bank 設立にも協力してもらった。

ぼくの息子たちも坂本さんに会えたと、幼い娘はト音記号をホワイトボードに書いて、坂本さんに遊んでもらった。結局この NO NUKES2019 がお会いした最後だった。坂本さんは年老いてからどんどん優しくなった。ずっと生きていてほしかった。元気でいてね、坂本さんの魂。これからも非戦の想いを貫いていくよ。

#### ■映画監督・池谷薫氏

東日本大震災の被災地支援で、坂本さんは陸前高田市に近い岩手県住田町に全額を寄付して仮設住宅を建てた。僕の友人の菅原教文さん一家は、つらい避難生活のあと、森林保全のため地元の木材を使ったその仮設に入居した。菅原さんは津波でご両親を亡くし、自宅と職場の酒蔵（酔仙酒造）は流された。

坂本さんの訪問を知った菅原さんは、当時 14 歳だった娘の綾乃さんに、音楽で坂本さんに感謝の気持ちを届けてみないか、と提案する。綾乃さんは 5 歳からピアノを習っていたが、そのピアノも津波で流された。震災後、菅原さんは綾乃さんに電子ピアノを買ってあげた。かくして綾乃さんの猛練習がはじまった。

ひと月後、一家の仮設住宅を訪問した坂本さんを迎えたのは、綾乃さんが弾く「戦場のメリークリスマス」だった。切ないメロディーなのに、どこか震災で傷ついた心が癒されていく…綾乃さんは練習中ずっとそんな感覚をもっていた。緊張して少し失敗したけど、感謝の気持ちは伝えられたのではないか、と思う。演

奏を終えると、坂本さんは「ピアノを続けてね」と優しく言ってくれた。偉大な音楽家なのに同じ目線で寄り添ってくれた。気さくで温かさにあふれた人だった。

坂本さんと菅原さん一家の交流はその後もつづいた。翌年末に高田一中の体育館でコンサートが開かれると、楽屋に招いてくれた。教文さんは勤めている酔仙酒造のにごり酒「雪っこ」を坂本さんに贈った。坂本さんは新幹線などで移動する際に好んで「雪っこ」を口にするようになった。14 年に坂本さんが中咽頭癌を発症すると、仮設住宅の住民らと励ましの寄せ書きを贈り、回復を祈りつづけた。

最後に会ったのは 19 年夏。陸前高田の「夢アリーナたかた」で三陸防災復興プロジェクトで坂本さんがピアノを演奏した。坂本さんがずっと陸前高田を思っていてくれたのがうれしかった。会うたびに家族 4 人で坂本さんを囲んだ写真が一家の宝物になった。

25 歳になった綾乃さんはいま仙台で一人暮らしをしている。毎日ピアノを弾くのは難しくなったが、実家に戻ると鍵盤に触れたくなる。きっとピアノを弾くたびに坂本さんのやさしい笑顔を思い出すだろう。

今訃報に触れた一家の悲しみはとてつもなく大きい。それでも教文さんは僕にこんなメッセージをくれた。「震災後、いろいろな有名人が支援に来てくれたけど、これほど長く支えになってくれた人はいない。坂本さんがご縁を大切になさることを知って、本当のやさしさや、表に見えない根の張り方の大切さを間近で勉強させていただきました」

世界のサカモトは、人の痛みに寄り添う、真の慈悲の心の持ち主だった。

\* 「政治や社会を考えることは立場に関係ない。生きていけばみなすべきこと。それは日本でも当たり前にするべき」「声を上げないとしたらそれがストレス。見て見ぬふりをふりをするというのは僕にはできない」「音楽の力というのは、音楽を演奏して、いい音楽をするかどうかということ。感動を与えるかどうかは個人の向こう側の話」「音楽を作る側がそういう力を及ぼしてやろうと思うのは言語道断でおこがましい」

911 の際に国内外で飛び交った論考を緊急出版した「非戦」は当時何度も読んだ。YMO も「戦メリ」もよく聞いた。平和・環境を真っ直ぐに語るオピニオンリーダー的存在だった。合掌（報恩寺 林 暁）